

97御嶽スーパートライアスロン

(1997年8月13日)

8/12から8/14まで木曾川源流にある長野県三岳村で行われた「御嶽スーパートライアスロン」に行ってきました。

標高差2,267m、“日本一苛酷なスーパーレース”をキャッチフレーズに朝7時、雲の上に見える御嶽頂上(3,067m)を目指し、256名がバイクスタートを切りました。本格的なトライアスリートから、自転車ロード、マウンテンバイクの初心者まで参加者はバラエティに富んでいましたが、初心者には苛酷さがこの時点では何たるものかわからなかったことでしょう。

バイクは16kmで1,027m登らなくてはならず、特に後半の一番きつい2kmは勝手にハンドルが左右に振られ、転倒寸前。やっとの思いでバイクから降り、押しましたが押すのも大変でした。

6合目バイクフィニッシュには硫黄の臭いがプンプンする「中の湯」があり、温泉にも入りたいものの、そういうわけにいかず、森林地帯を5km先(1,240mの登り)の御嶽頂上神社を目指しました。最初は丸太ん棒で作った段状を登って行くのですが、今年は雨がが多く、丸太ん棒は水分を多く含んでおり、非常に滑りやすくなりました。ちょうど森林の中の沢を登っていく感じで8合目(標高2,360m)からは岩場、浮石地帯となります。

これ以降は真夏の太陽を背中から受けるのですが、ガスがかかっており、熱く感じないくらいで斜面がきついものの楽しい登山が出来ました。取りあえず足元の安全確保を第一に考えながらもポイントでは写真を撮り、楽しい登山を心掛けました。しかし、3,000m近くになりかなり苦しんでいる方の姿が多々見え、自分は苦しくなかったのが気の毒にも感じました。頂上の石段が見えると一気に駆け上がり、ひとりひとり記念撮影。私は持ってきたカメラで日本一高所にある池「二ノ池」をバックにガッツポーズ(写真上)。登山には約2時間要しました。

これからは下り。しかし、石段を一気に掛け登った反動で太股裏側が攣り、ストレッチとエイドでは欠かさずクールスプレーを塗りながら下山しました。岩場は結構飛ぶように降りましたが、8合目以降になると滑り易いので滑らないよう、それだけに気をつけました。しかし、3回ほど滑り、1回は尻餅をつきました。8合目以降は時間が掛かり、登り以上に長く感じました。

6合目に着くと今度はランです。数カ所若干上りがある以外は全て下り急勾配なので、登山と合わせ心配したのですが、快調に5分/kmで走れ、抜かれたのは3人で、20人ほど抜かしました。また数カ所あった自然水エイドの水は冷たく、頭から被ると最高の気持ちでした。フィニッシュタイムは5時間46分16秒。



こんなに楽しくて良いのだろうか？。こんなに三岳の人に至れり尽くせりやってもらっていいのだろうか？。と思うほど素晴らしい大会でした。ウルトラマラソンも素晴らしいですが、それ以上のおおらかさを持った大会でした。ウルトラのトレーニングにもってこいの大会でもありました。

前夜祭では「ウルトラ界のスーパースター遠藤栄子さん」にお会いでき(写真左)、思い出深い大会となりました。霊峰御嶽は登山者のマナーも良いし、良いこと尽くめ大会でした。それにしても太股から下の筋肉痛の凄さは苛酷さを物語っています。

